

PRAEVIDENTIA DAILY (9月10日)

昨日までの世界：ドル高継続だが、一部に反転の動きも

昨日は、市場が Fed の予測中央値よりも低金利の長期化を予想しているとするサンフランシスコ連銀の 8 日付論文が材料視されたこともあって、米中長期債利回りの上昇と共にドルが特に対豪ドル、NZ ドルなどのコモディティ通貨で上昇し、ドル/円も 106 円台半ばへ続伸した。米 2 年債利回りは先週金曜の米雇用統計発表前の水準を回復している。豪州では、NAB 企業信頼感、景況感が各々 8.0、3.5、住宅ローンも前月比+0.3%といずれも市場予想を下回ったことも、直後の反応は限定的だったが豪ドル安要因だった。

他方、ユーロは、スコットランド独立リスクへの警戒がスペイン（カタルーニャ州でも今年 11 月に独立を問う住民投票実施）に波及しスペイン国債が下落するなど売り材料があったにも拘らず、これまでの下落が大きかったためか昨日は反発した。ポンド/ドルも、9 月入り後の急落後、一旦沈静化し横ばいとなっている。なお、Carney・BoE 総裁は昨日、前回インフレ報告で来年春に利上げを開始するという市場の見通しに従えばインフレ率が目標である 2%近くに落ち着く、との内容に言及し、金利正常化の時期が近付いている、と述べたが、市場予想と然程変わらないこと、市場の関心はスコットランド独立を巡る住民投票に集まっていること、更にはこれまでの一貫性のない発言の連続で、市場は Carney 総裁の発言にいちいち反応していたらかなわない、という心理が働いていることもあり、市場の反応は限定的だった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	+0.03	+0.03	-0.00	+0.03	+0.03	-0.00	-0.7	+0.3	+0.3	+0.6
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.3	-0.04	-0.01	+0.03	+0.03	+0.06	+0.03	-0.6	-0.7	+0.6	+0.05
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.0	-0.02	+0.01	+0.03	-0.03	+0.00	+0.03	-0.1	-0.7		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.8	+0.01	+0.04	+0.03	+0.06	+0.09	+0.03	-0.7	+0.0	-0.3	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.3	+0.00	+0.03	+0.03	+0.03	+0.05	+0.03	-0.7	+0.0	-0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.1	+0.01	+0.03	+0.02	-0.01	+0.03	+0.04	-0.7	+0.3	-0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。  
(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：RBNZ 口先介入の微修正リスク

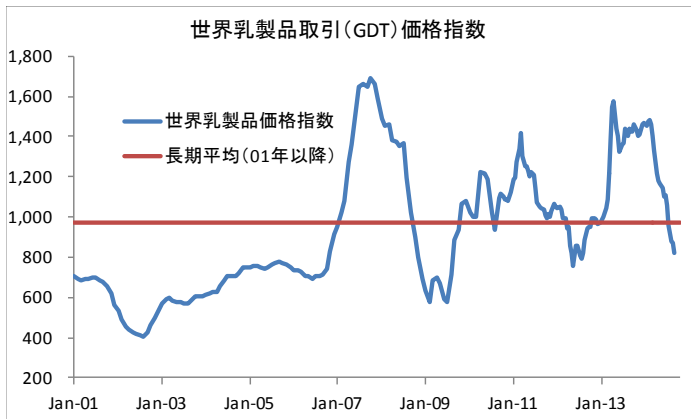
きょうの注目通貨：USD/JPY ↓、NZD/USD ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦 8 月国内企業物価 (CGPI)・前年比	8 : 50	+4.3%	+4.1%	2 が月連続鈍化予想
本邦 7 月機械受注・前年比	8 : 50	-3.0%	+0.6%	
中国 8 月新規人民元建て融資・元	9 : 01	3852 億	7000 億	
岩田日銀副総裁発言	10 : 30			ハト派、14 : 00 記者会見
<b>NZ・RBNZ 金融政策決定</b>	<b>6 : 00</b>	<b>3.50%</b>	<b>3.50%</b>	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日も材料が少ないことから、ドル/円は特に現在市場の焦点である米利上げ開始時期に関する追加材料が出てくれない東京時間、欧州時間に、トレンド追従のドル買い円売りが持ち込まれ高値を更新するというパターンがみられるかもしれない。但し当社は引き続き、市場の米利上げ早期開始期待とドルロング積み上げは行き過ぎとみており、いつ調整が起きてもおかしくないとの見方を維持する。

相対的に注目度が高い材料は明日早朝の RBNZ 金融政策決定だが、既に RBNZ は当面据え置き・様子見姿勢を宣言したことから今回も政策金利は 3.50% で据置きが予想され、かつ市場では利上げ再開は来年初との見方が強まっている。このため、今回の政策決定が NZ ドルの方向性を大きく変えることはなく、目先は米ドル高基調とニュージーランドの主要輸出品である乳製品の国際価格の急落（下図を参照）を受けて、NZ ドル/米ドル相場の下落基調が続くそう。敢えて言えば、これまでの NZ ドル大幅下落を受けて、RBNZ の声明文で前回含まれていた「NZ ドルの水準は正当化されず、持続不可能で、大幅に下落する可能性がある」という表現が弱められるリスクが若干あり、その場合は NZ ドルが反発しようが、これ以上下落しなくてもよい、というシグナルではないため、上昇は一時的に留まる可能性が高いだろう。



#### ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社

金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号

一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641